



業務及び財産の状況に関する説明書 【平成28年3月期】

この説明書は、金融商品取引法第四十六条の四の規定に基づき、
全営業所に備え置き公衆の縦覧に供するため作成したものです。

株式会社AFT

登録番号 関東財務局長（金商）第250号
一般社団法人 金融先物取引業協会 加入 会員番号1536



| | |
|--|----|
| I. 当社の概況及び組織に関する事項 | 3 |
| 商号、登録年月日及び登録番号 | 3 |
| 沿革及び経営の組織 | 3 |
| 株式の保有数の上位十位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合 | 4 |
| 法第二十九条の二第一項第三号から第九号までに掲げる事項 | 4 |
| 法第三十七条の七第一項第一号ロ、第二号ロ、第三号ロ又は第四号ロに定める業務に関する苦情処理措置及び紛争解決措置の内容 | 5 |
| II. 業務の状況に関する事項 | 5 |
| 直近の事業年度における業務の概要 | 5 |
| 直近の三事業年度における業務の状況を示す指標 | 7 |
| III. 当社の直近の二事業年度における財産の状況に関する事項 | 8 |
| 貸借対照表 | 8 |
| 損益計算書 | 9 |
| 株主資本等変動計算書 | 10 |
| 個別注記表 | 11 |
| 各事業年度終了の日における次に掲げる事項 | 12 |
| 借入金の主要な借入先及び借入金額 | 12 |
| 保有する有価証券の取得価額、時価及び評価損益 | 12 |
| デリバティブ取引の契約価額、時価及び評価損益 | 12 |
| IV. 管理の状況に関する事項 | 12 |
| 内部管理の状況の概要 | 12 |
| 内部監査体制について | 12 |
| 法第四十三条の二から第四十三条の三までの規定により管理される金銭、有価証券その他の財産の種類ごとの数量若しくは金額及び管理の状況 | 12 |
| V. 連結子会社等の状況に関する事項 | 13 |
| 当社及びその子会社等の集団の構成 | 13 |
| 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等 | 13 |



I. 当社の概況及び組織に関する事項

イ. 商号、登録年月日及び登録番号

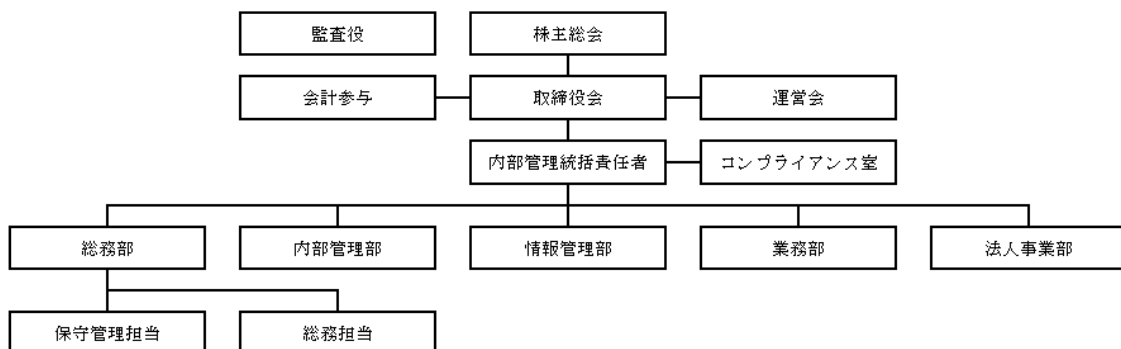
- (1) 商号 株式会社AFT
- (2) 登録年月日 平成19年9月30日
- 登録番号 関東財務局長（金商）第250号

ロ. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

| | |
|-----------------|--|
| 2004年（平成16年）5月 | 会社設立 |
| 2004年（平成16年）5月 | 外国為替証拠金取引媒介業務開始（GFT社） |
| 2006年（平成18年）3月 | 金融先物取引業者として登録 【関東財務局長（金先）第120号】 |
| 2006年（平成18年）3月 | 金融先物取引業協会に加入 【会員番号1536】 |
| 2007年（平成19年）8月 | 会計参与設置 |
| 2007年（平成19年）9月 | 第一種金融商品取引業者として登録 【登録番号：関東財務局長（金商）第250号】 |
| 2009年（平成21年）9月 | 「Market Link」開発開始 |
| 2010年（平成22年）1月 | 楽天信託株式会社(旧商号:トランスバリュー信託株式会社)と外為証拠金区分管理信託を契約、開始 |
| 2010年（平成22年）2月 | カバー取引先にCapital Market Servicesを追加 |
| 2010年（平成22年）5月 | 金融商品取引業務変更登録（プリンシパル） |
| 2010年（平成22年）5月 | 新取引システム「Market Link」提供開始 |
| 2011年（平成23年）1月 | Market Linkの流動性を利用したホワイトラベルサービス「MT4 Link」提供開始 |
| 2012年（平成24年）9月 | カバー取引先にDukascopy Bank SAを追加 |
| 2013年（平成25年）11月 | 新取引システム「Trade Link」提供開始 |
| 2015年（平成27年）8月 | カバー取引先にLMAX Limitedを追加 |

(2) 経営の組織





ハ. 株式の保有数の上位十位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

| 氏名又は名称 | 株式の保有数 | 議決権の割合 |
|-----------|-------------|----------|
| 株式会社AFTHD | 3,992,000 株 | 100.00 % |

ニ. 法第二十九条の二第一項第三号から第九号までに掲げる事項

(1) 役員の名又は名称

| 役 職 名 | 氏 名 又 は 名 称 |
|-----------------|-------------|
| 代 表 取 締 役 | 宮 本 正 次 |
| 代 表 取 締 役 C F O | 宮 代 登 志 枝 |
| 専 務 取 締 役 C O O | 横 山 良 三 |
| 取 締 役 | 中 村 隆 之 |
| 監 査 役 | 渡 邊 幸 信 |
| 会 計 参 与 | 原 康 喜 |

(2) 政令で定める使用人

金融商品取引業に関し、法令等（法令、法令に基づく行政官庁の処分又は定款その他の規則をいう。）を遵守させるための指導に関する業務を統括する者（部長、次長、課長その他いかなる名称を有する者であるかどうかを問わず、当該業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者を含む。）の氏名

| 役 職 名 | 氏 名 |
|---------------------|---------|
| 専務取締役COO（内部管理統括責任者） | 横 山 良 三 |
| 内部管理部部長（内部管理責任者） | 濱 田 剛 志 |

(3) 業務の種別

第一種金融商品取引業

金融商品取引法第二十八条第一項第二号に掲げる行為に係る業務（店頭外国為替証拠金取引業務）並びに有価証券等管理業務

(4) 金融商品取引法第三条各号に掲げる有価証券又は金融商品取引所に上場されていない有価証券（政令で定めるものを除く。）について、電子募集取扱業務を行う場合にあっては、その旨
該当事項はありません。

(5) 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地

| 名 称 | 所 在 地 |
|------------------|--------------------|
| 本 社 | 東京都新宿区西新宿3丁目11番16号 |
| AFTカスタマーサービスセンター | 東京都新宿区西新宿3丁目9番12号 |

(6) 他に事業を行っているときは、その事業の種類

該当事項はありません。

(7) 指定紛争解決機関の商号又は名称

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター



- (8) 加入する金融商品取引業協会
一般社団法人 金融先物取引業協会
- (9) 対象事業者となる認定投資者保護団体の名称
該当事項はありません。
- (10) 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号
該当事項はありません。

ホ. 法第三十七条の七第一項第一号ロ、第二号ロ、第三号ロ又は第四号ロに定める業務に関する苦情処理措置及び紛争解決措置の内容

お客様からのご意見は、カスタマーサービスセンターが承ります。苦情・相談につきましては、当社の定める「苦情紛争処理規程」に従い、その内容を記録するとともに情報管理部責任者及び内部管理統括責任者に報告するものとし、情報管理部責任者及び内部管理統括責任者は、迅速かつ適切な対応に努めるものとします。

又、当社は、証券・金融商品取引に関する苦情の対応・解決に関して、金融庁から金融商品取引法に基づく指定紛争解決機関に指定されている「特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）」と契約を締結しており、公正・中立な立場、並びに迅速かつ透明度の高い処理を図る態勢を整えております。

・ AFT カスタマーサービスセンター（当社のご意見等承り窓口）
受付時間：平日 9:00～20:00（土日祝日、当社が定める休日を除く）
受付方法：電子メール、電話、FAX、郵便
電子メール：csc@aft.co.jp
電話番号：03-3320-7101
FAX：03-3320-7126
郵送：〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-11-16
AFT カスタマーサービスセンター宛

・ 証券・金融商品あっせん相談センター（苦情処理・紛争解決機関連絡先）
電話番号：0120-64-5005
URL：<https://www.finmac.or.jp/contact/soudan/>
東京事務所：
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 2-1-13 第三証券会館
大阪事務所：
〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜 1-5-5 大阪平和ビル

II. 業務の状況に関する事項

イ. 直近の事業年度における業務の概要

MarketLink を金融システムプロバイダーの FirstDerivatives 社（アイルランド、以下 FD 社）と共に作成し、開発を続けて参りましたが、時間が経ち、プログラム言語の保証期限切れや新しい仕組みへの切り替えのためシステムサポートの終了を迎えることになりました。これらは以前より予期しており、現在もデルタフローと次期システムの開発を継続しておりますが、開発途中であるため、MarketLink は一旦サービスを中止致しました。更に、前期からのユーロ安市況の影響を受けた残玉減少傾向が継続し、残玉合計が前期末比



約 58%減少しました。

一方、出来高は、Trade Link の短期売買を中心に増加し、前期比約 45%増加しました。

残玉の減少はスワップ収益の減少に、出来高の増加は顧客受入手数料の増加に直結し、結果、売上高合計額は前期比約 40%減少に留まりました。

当社の今期方針は、国内外の金融商品取引業者向けホワイトラベル提携契約の獲得により取引高の増加による収益増を指向するものですが、2015 年 9 月に国内の金融商品取引業者（EZ インベスト証券株式会社）とホワイトラベル契約を締結しており、今後、カバー取引による収益を見込むことができます。

今年度早期のリリースに向け開発を進めていた新たなクライアント取引ツール「Currency League（カレンシーリーグ）」（国内特許取得 特許第 5613281 号）は、既存業務提携先の FD 社の他、今年度業務提携契約を締結した LMAX 社（イギリス）、ToolsForBrokers 社（ロシア）とデモ環境で接続、検証を実施した結果、FD 社香港支部、LMAX 社、ToolsForBrokers 社から共同販売の要請とともに多数のアイデアを頂き、機能追加のため開発を継続しております。

既に、アジア諸国を中心に EU、英国などに特許申請しており、前期に引き続き、今期も東京都の助成金を頂きました。国内外のホワイトラベル提携契約の獲得による取引高増加を実現すべく環境が整いつつあります。

当社の今年度方針は、国内外の金融商品取引業者向けホワイトラベル提携契約の獲得により取引高の増加による収益増を指向し、1.完成間近な新しいクライアント取引ツール「Currency League」（国内特許取得済 特許第 5613281 号、世界特許申請済）の追加開発と、2.新たなホワイトラベルソリューションの開発、2つの施策による営業力向上の実現でありましたが、1.「Currency League」に関しては、業務提携先のご意見を踏まえ、追加開発を継続しており、機能追加のため開発を優先し、リリース予定日は来年度に変更することにしました。2.新たなホワイトラベルソリューションの開発に関しては、平成 27 年 9 月以降、4 件の提供実績を収受し、一応の成果を認める結果となりました。

現在「Currency League」は各社のシステムに直接つながるように開発しており、既に JForex、デルタフロー、LMAX、ToolsForBrokers、PrimeXM、Fair Trading Technology、Onezero との試験接続において稼働実績を確立するに至っています。当社より流動性と「Currency League」を提供する GMI 社（イギリス）との業務提供による ACTtrader への接続は、現在 API の検証をしている段階です。

特に ToolsForBrokers に関しては、MT4 の欠点を解消すべくプラグインを開発中であり、「Currency League」本体を変えることなく接続できる仕組みを開発しています。

現在は、過去当社が IB からプリンシパルへ業態変更したときと同じような状況にあり、システム開発そのものが営業につながると考え、システム開発に集中し、中心に据え、社員一同士気が上がり、非常にいい雰囲気での開発に励んでおります。

当社は今後もホワイトラベルソリューションの提供を中心に取り組んで参ります。

EZ インベスト証券において「Currency League」導入を待たせており、ToolsForBrokers とのパートナーシップにより EZ インベスト証券に「Currency League」を提供するための追加開発を行っています。

また、MT4、MT5 に関し、それらの不足点・欠点を補うべき開発が最終段階に来ています。

GMI グループ（イギリス、香港、中国）とは、新たなクライアント取引ツールを相互で提供するパートナーシップ契約を行い、中国におけるシステムとして流動性付きの「Currency League」を GMI 社（イギリス）に提供し、現在 20 万口座を有する GMI グループ（イギリス、香港、中国）によって中国市場の展開を図ることが合意されています。来期には GMI 社（イギリス）を通じて中国市場への提供が始まります。



ホワイトトラベルソリューションの提供に関し、中国からたくさんの引き合いが来ていますが、日本の適格機関投資家相当を条件としてハードル高く設定しており、直接中国との取引は時間を要しています。

更に、過去、GFT社やアメリトレード、tradableの根幹システムを作成した実績を持つ Devexperts社（ロシア）よりジョイントビジネスとして、金融システムの開発要請が再びあり、根幹となるシステムを検討するとともに話し合いを行っています。

ロ. 直近の三事業年度における業務の状況を示す指標

(単位：千円)

| | 第11期 | 第12期 | 第13期 |
|------------------|------------|------------|------------|
| (1) 営業収益 | 256,959 | 139,961 | 83,108 |
| 純営業収益 | 203,852 | 119,473 | 69,184 |
| (2) 経常利益又は経常損失 | 19,409 | -40,924 | -68,745 |
| (3) 当期純利益又は当期純損失 | 11,953 | -43,515 | -69,456 |
| (4) 資本金の額 | 213,400 | 213,400 | 213,400 |
| 発行済株式の総数 | 3,992,000株 | 3,992,000株 | 3,992,000株 |
| (5) 受入手数料の内訳 | 55,163 | 13,022 | 38,025 |
| (6) トレーディング損益 | 201,795 | 105,939 | 21,664 |

(7) 株券の売買高及びその受託の取扱高

該当事項はありません。

(8) 国債証券、社債権、株券及び投資信託の受益証券の引受高、売出高及び募集、売出し、私募又は特定投資家向け売付け勧誘等の取扱高

該当事項はありません。

(9) その他業務の状況

該当事項はありません。

(10) 各事業年度終了の日における自己資本規制比率

(単位：百万円)

| | 第11期 | 第12期 | 第13期 |
|----------------------|--------|--------|--------|
| 固定化されていない自己資本 (A) | 209 | 173 | 102 |
| リスク相当額 (B) | 67 | 61 | 42 |
| 市場リスク相当額 | 0 | 0 | 0 |
| 取引先リスク相当額 | 17 | 16 | 7 |
| 基礎リスク相当額 | 50 | 44 | 34 |
| 自己資本規制比率 (A)/(B)×100 | 308.7% | 280.7% | 243.4% |

(11) 各事業年度終了の日における使用人の総数及び外務員の総数

| | 第11期 | 第12期 | 第13期 |
|------------|------|------|------|
| 使用人の総数 | 12 | 11 | 12 |
| (うち外務員の総数) | 7 | 6 | 8 |



Ⅲ. 当社の直近の二事業年度における財産の状況に関する事項

イ・(1) 貸借対照表

(単位：円)

| 資 産 の 部 | | 第12期 | 第13期 | 負 債 の 部 | |
|----------|--------------|--------------|-----------------|--------------|--------------|
| 科 目 | 平成27年3月31日現在 | 平成28年3月31日現在 | 科 目 | 平成27年3月31日現在 | 平成28年3月31日現在 |
| 流 動 資 産 | 624,217,184 | 305,925,618 | 流 動 負 債 | 450,161,161 | 203,209,101 |
| 現金・預金 | 282,187,800 | 182,599,995 | 未払金 | 5,877,876 | 1,743,435 |
| 自己差入証拠金 | 334,345,672 | 116,060,251 | 預り金 | 297,417,843 | 103,185,499 |
| 前払費用 | 369,000 | | 顧客受入証拠金 | 146,280,698 | 97,483,434 |
| 未収消費税 | 6,874,129 | 4,265,372 | 未払法人税等 | 379,364 | 711,158 |
| 預け金 | 440,583 | 3,000,000 | 短期リース負債 | 205,380 | 85,575 |
| 固 定 資 産 | 53,945,258 | 55,742,645 | 固 定 負 債 | 85,575 | |
| 有形固定資産 | 864,185 | 520,826 | 長期リース負債 | 85,575 | |
| 造作設備 | 266,340 | 206,980 | | | |
| 車輛運搬具 | 179,210 | 143,369 | 負 債 合 計 | 450,246,736 | 203,209,101 |
| 工具器具備品 | 157,835 | 105,277 | 純 資 産 | | |
| リース資産 | 260,800 | 65,200 | 株 主 資 本 | 227,915,706 | 158,459,162 |
| 無形固定資産 | 46,672,073 | 48,812,819 | 資 本 金 | 213,400,000 | 213,400,000 |
| ソフトウェア | 38,738,406 | 36,711,985 | 資 本 剰 余 金 | 37,000,000 | 37,000,000 |
| 特許権 | 7,933,667 | 12,100,834 | 資 本 準 備 金 | 37,000,000 | 37,000,000 |
| 投資その他の資産 | 6,409,000 | 6,409,000 | 利 益 剰 余 金 | -22,484,294 | -91,940,838 |
| 出資金 | 10,000 | 10,000 | 利 益 準 備 金 | 15,000,000 | 15,000,000 |
| 保証金 | 4,360,000 | 4,360,000 | そ の 他 利 益 剰 余 金 | -37,484,294 | -106,940,838 |
| 敷金 | 39,000 | 39,000 | 別 途 積 立 金 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 預託金 | 2,000,000 | 2,000,000 | 繰越利益剰余金 | -39,484,294 | -108,940,838 |
| 資 産 合 計 | 678,162,442 | 361,668,263 | 純 資 産 合 計 | 227,915,706 | 158,459,162 |
| | | | 負 債 ・ 純 資 産 合 計 | 678,162,442 | 361,668,263 |



(2) 損益計算書

(単位：円)

| 科 目 | 第12期 自 平成26年4月 1日 至 平成27年3月31日 | | 第13期 自 平成27年4月 1日 至 平成28年3月31日 | |
|------------|--------------------------------------|-------------|--------------------------------------|-------------|
| | 売 上 高 | | | |
| トレーディング損益 | 105,939,259 | | 21,664,417 | |
| 顧客受入手数料 | 13,022,264 | | 38,025,270 | |
| システム提供料 | 21,000,000 | 139,961,523 | 23,419,150 | 83,108,837 |
| 売 上 原 価 | | | | |
| 取引支払手数料 | 17,470,966 | | 10,906,006 | |
| 信託報酬 | 3,017,170 | 20,488,136 | 3,018,700 | 13,924,706 |
| 売 上 総 利 益 | | 119,473,387 | | 69,184,131 |
| 販売費及び一般管理費 | | 167,719,809 | | 139,320,661 |
| 営 業 利 益 | | -48,246,422 | | -70,136,530 |
| 営業外収益 | | | | |
| 受取利息 | 52,858 | | 38,176 | |
| 為替差益 | 2,901 | | 25,835 | |
| 雑収入 | 10,957,553 | 11,013,312 | 1,735,097 | 1,799,108 |
| 営業外費用 | | | | |
| 為替差損 | 3,690,920 | 3,690,920 | 407,964 | 407,964 |
| 経常利益 | | -40,924,030 | | -68,745,386 |
| 税引前当期純利益 | | -40,924,030 | | -68,745,386 |
| 法人税等充当額 | | 2,591,964 | | 711,158 |
| 当期純利益 | | -43,515,994 | | -69,456,544 |



(3) 株主資本等変動計算書

自 平成27年4月01日
至 平成28年3月31日

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | | 純資産合計 |
|---------|---------|--------|---------|--------|----------|----------|---------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 株主資本合計 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | | その他利益剰余金 | | | 利益剰余金合計 | |
| | | | | 任意積立金 | 繰越利益剰余金 | | | | |
| 当期首残高 | 213,400 | 37,000 | 37,000 | 15,000 | 2,000 | -39,484 | -22,484 | 227,915 | 227,915 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | |
| 当期純損失 | | | | | | 69,456 | 69,456 | 69,456 | 69,456 |
| 当期変動額合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | | -69,456 | -69,456 | -69,456 | -69,456 |
| 当期末残高 | 213,400 | 37,000 | 37,000 | 15,000 | 2,000 | -108,940 | -91,940 | 158,459 | 158,459 |

自 平成26年4月01日
至 平成27年3月31日

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | | 純資産合計 |
|---------|---------|--------|---------|--------|----------|---------|---------|---------|---------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 株主資本合計 | | |
| | | 資本準備金 | 資本剰余金合計 | | その他利益剰余金 | | | 利益剰余金合計 | |
| | | | | 任意積立金 | 繰越利益剰余金 | | | | |
| 当期首残高 | 213,400 | 37,000 | 37,000 | 15,000 | 2,000 | 4,031 | 21,031 | 271,431 | 271,431 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | |
| 当期純損失 | | | | | | 43,515 | 43,515 | 43,515 | 43,515 |
| 当期変動額合計 | 0 | 0 | 0 | 0 | | -43,515 | -43,515 | -43,515 | -43,515 |
| 当期末残高 | 213,400 | 37,000 | 37,000 | 15,000 | 2,000 | -39,484 | -22,484 | 227,915 | 227,915 |

個別注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法（但し、建物（附属設備を除く）は定額法）を採用しております。

②無形固定資産

定額法を採用しております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

2. 貸借対照表に関する注記

(1) 関係会社に対する金銭債権・金銭債務

内訳

【平成28年3月期】

| | | |
|-----|-----|------------|
| 科目名 | 保証金 | |
| 金額 | | 4,000,000円 |

【平成27年3月期】

| | | |
|-----|-----|------------|
| 科目名 | 保証金 | |
| 金額 | | 4,000,000円 |

3. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引に係るもの

【平成28年3月期】

| | |
|------------|-------------|
| 売上高 | 0円 |
| 仕入高 | 0円 |
| その他の営業取引高 | 37,745,716円 |
| 営業取引以外の取引高 | 0円 |

【平成27年3月期】

| | |
|------------|-------------|
| 売上高 | 0円 |
| 仕入高 | 0円 |
| その他の営業取引高 | 50,404,061円 |
| 営業取引以外の取引高 | 0円 |

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 発行済株式の種類及び総数に関する事項

【平成28年3月期】

発行済株式

普通株式（発行済株式）

| | |
|------------------|------------|
| 前期末株式数（発行済普通株式） | 3,992,000株 |
| 当期増加株式数（発行済普通株式） | 0株 |
| 当期減少株式数（発行済普通株式） | 0株 |
| 当期末株式数（発行済普通株式） | 3,992,000株 |

【平成27年3月期】

発行済株式

普通株式（発行済株式）

| | |
|------------------|------------|
| 前期末株式数（発行済普通株式） | 3,992,000株 |
| 当期増加株式数（発行済普通株式） | 0株 |



| | |
|------------------|------------|
| 当期減少株式数（発行済普通株式） | 0株 |
| 当期末株式数（発行済普通株式） | 3,992,000株 |

- ロ. 各事業年度終了の日における次に掲げる事項
- (1) 借入金の主要な借入先及び借入金額
該当事項はありません。
 - (2) 保有する有価証券の取得価額、時価及び評価損益
該当事項はありません。
 - (3) デリバティブ取引の契約価額、時価及び評価損益
該当事項はありません。

IV. 管理の状況に関する事項

イ.(1) 内部管理の状況の概要

当社はコンプライアンスを経営の最重要課題の一つとして位置づけ、「コンプライアンス基本方針」、「株式会社AFT倫理憲章」を定め、金融商品取引業者として当社の役職員が金融商品取引法及び関連法令諸規則を遵守し、お客様と共に繁栄する金融商品取引業者となるための体制を確立するに当たっての基本的な事項を定めています。また、顧客情報・内部情報など特に適正な管理が必要な情報の管理にあたり「内部情報管理指針」を設け、指針に基づいた適切な取扱いを確保するために、情報管理責任者が統括し全役職員への周知徹底を図っています。

「内部情報管理指針」では、職務権限の区分、情報の重要度・機密性に応じた情報管理区分と業務区分とによる運用・管理方法、情報漏えい防止・反社会的勢力排除のための施設管理方法、情報の入力・保管・出力・破棄方法、情報の移動方法、外部記憶装置による情報の持ち出し及び持ち込みの禁止事項を定めるとともに、情報管理に関する意思決定機関としてコンプライアンス会議の設置を定めており、コンプライアンス会議では、情報管理に関する取扱規則の策定、評価、セキュリティ対策の実践等を行います。

(2) 内部監査体制について

会計参与の設置、監査役の設置の他、「内部監査指針」を策定し、内部監査の計画・実施及び報告に関する基本的事項を定めています。内部監査は、会社の組織、制度及び業務が経営方針及び諸規定に準拠し、効率的に運用されているかを検証、評価及び助言することにより、不正、誤謬の未然防止、正確な管理情報の提供、財産の保全、業務活動の改善向上を図り、経営効率の増進に資することを目的とし、内部管理担当役員が指名する監査責任者及び監査担当者により、書面監査及び実地監査の併用により行います。

監査担当者は事業年度毎に監査基本計画書を作成し、計画に基づき業務監査・会計監査を実施する他、特に必要があると認めた場合には特命監査を実施、監査実施後は、被監査部門に対する結果及び所見の講評と、代表取締役へ報告する体制となっています。

- ロ. 法第四十三条の二から第四十三条の三までの規定により管理される金銭、有価証券その他の財産の種類ごとの数量若しくは金額及び管理の状況

当社にて定める「区分管理に関する規程」に従い、顧客から預託を受けた証拠



金は、各顧客の持分が直ちに判別できるように管理するとともに、証拠金の保全のため楽天信託株式会社との間に単独運用の特定金銭信託契約を締結し、当該契約に定める内容に基づき同証拠金を金銭信託の方法により自己の固有財産と区分して保全措置を実施しています。

| 管理の方法 | 当期末残高 | 前期末残高 | 内訳 |
|-------|---------|---------|----------|
| 金銭信託 | 103 百万円 | 152 百万円 | 楽天信託株式会社 |

V. 連結子会社等の状況に関する事項

- イ. 当社及びその子会社等の集団の構成
該当事項はありません。
- ロ. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等
該当事項はありません。